

(3) 丸亀市の認知症ケアパスの活用について

- ①認知症ケアパスの活用はできていない。患者さんは認知症予備軍、軽度者が多いと思うので今後活用したいと思います。
- ②かかりつけ医として、「認知症初期集中支援チーム」を通じて専門医療機関と連携することができている。市の支援体制は多種であるので、患者の状態や必要性に合わせた支援が求められるが、各地域での窓口や責任体制が分かりにくい。
- ③中・長期的な視点を持った話し合いができる場面（診療時あるいはサービス担当者会議にて）を意識的に作る。その際にケアパスを本人・家族の意思決定支援のためのツールとして用いる。
- ④すべての職種の人がケアパスの内容を理解しておくことが重要と思う。多くのパスはあっても実際に活用されないことが多くあるように思う。
- ⑤歯科を来院される患者さんが、認知症に関して要望があるケースは稀だと思う。また、歯科医師も専門的知識はなく適切な対応をとることは難しい。認知症が疑われる方が来院された場合、ケアパスを活用していけるケースも今後増える可能性があるが、その患者または付き添いの方への説明等、ケアパスを上手く活用していくためのノウハウがあれば教えていただきたい。
- ⑥にじいろカフェが各地区で始まったので、それを活用していければ良いと思う。
- ⑦当ステーションがかかわりはじめる方には使用していないが、選択が多くて良いと思う反面、一般の方や高齢者にはやや混乱するほど項目がある。
- ⑧周知不足で活用されていない。活用する具体的な方法を例示してみてもどうか。
- ⑨項目が多すぎるため利用者及び家族には理解が困難である。情報のみのパンフレットになっている。「どのタイプ（どのような支援が必要か）か診断するツール」などを用いた上で、必要な情報量を調整すると使用しやすいのではないだろうか。
- ⑩「認知症になっても安心して暮らすために」良くできていると思う。では、どのように活用するかについては周知できていない。やはり、周知する場を設けることが大事ではないか。丸亀市が行っている集まる機会がわからないが、例えば①ふれあいいいききサロンに来た人に説明を行い⑥認知症サポーターになってもらうとか、④民生委員⑤福祉ママにケアパスの詳しい情報を提供するとか、いろいろな活用方法や周知方法を集めて、実施できることから行って、丸亀市民みんなが認知症になったの暮らしをイメージできるようになれば良い。